

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 7 月 25 日 8:21AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500～43,000 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 37,500～45,500 ドル  
(S&P500) 5000～6500

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,000～23,560  
(ナスダック総合) 18,000～21,500

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均



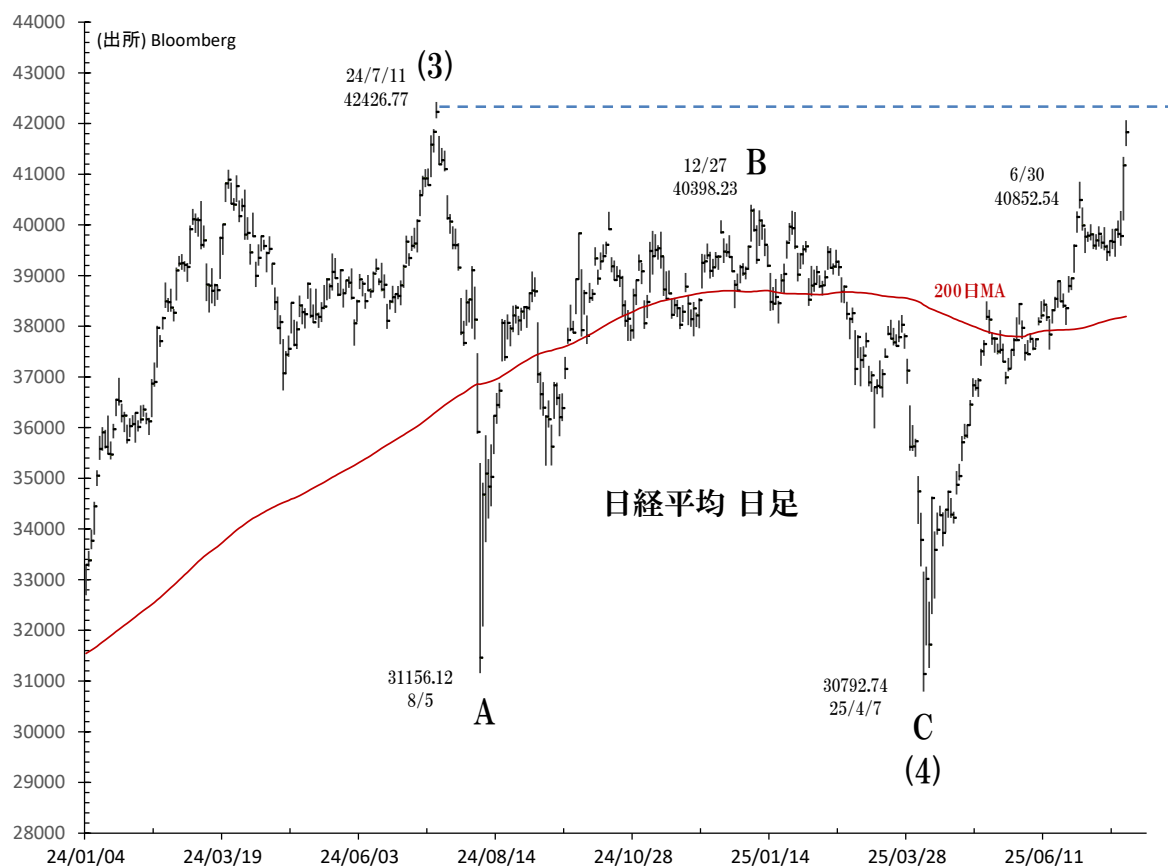
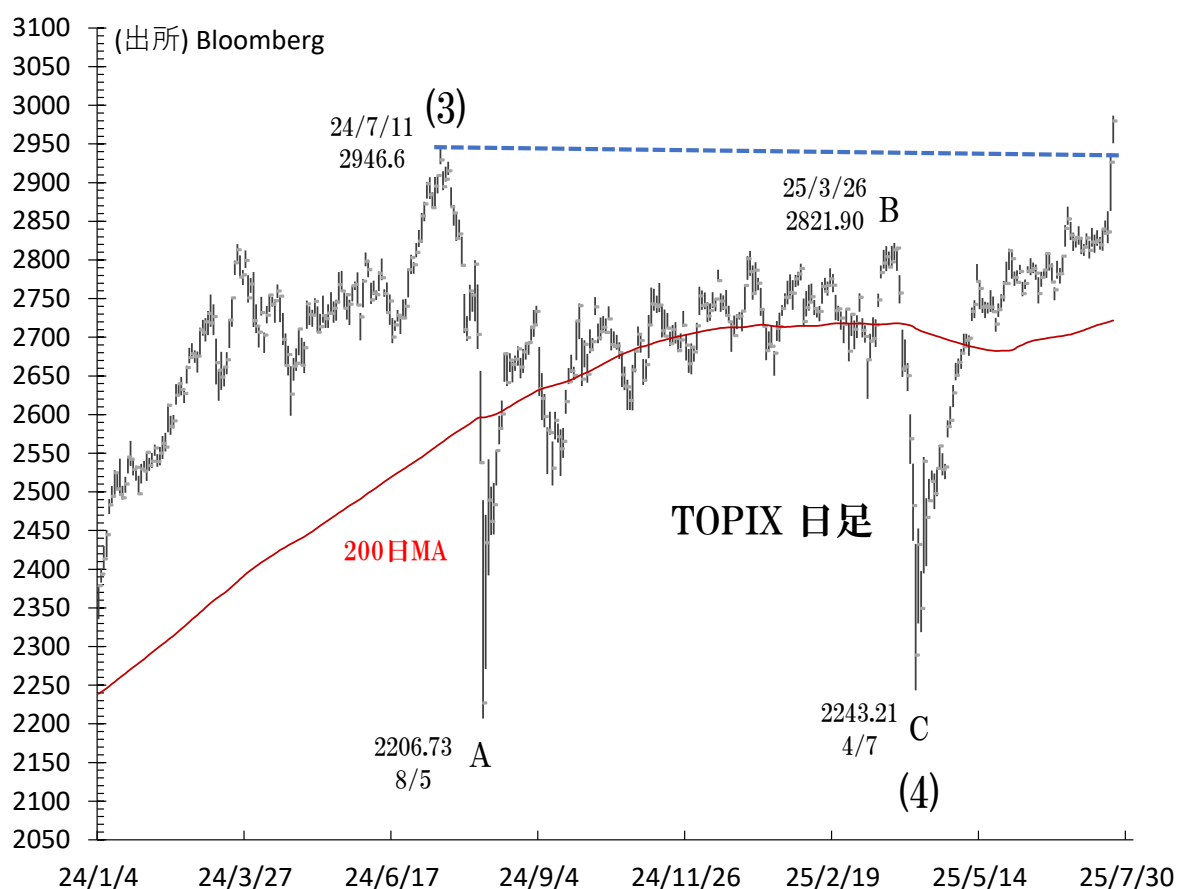
### 【週足 エリオット波動分析】

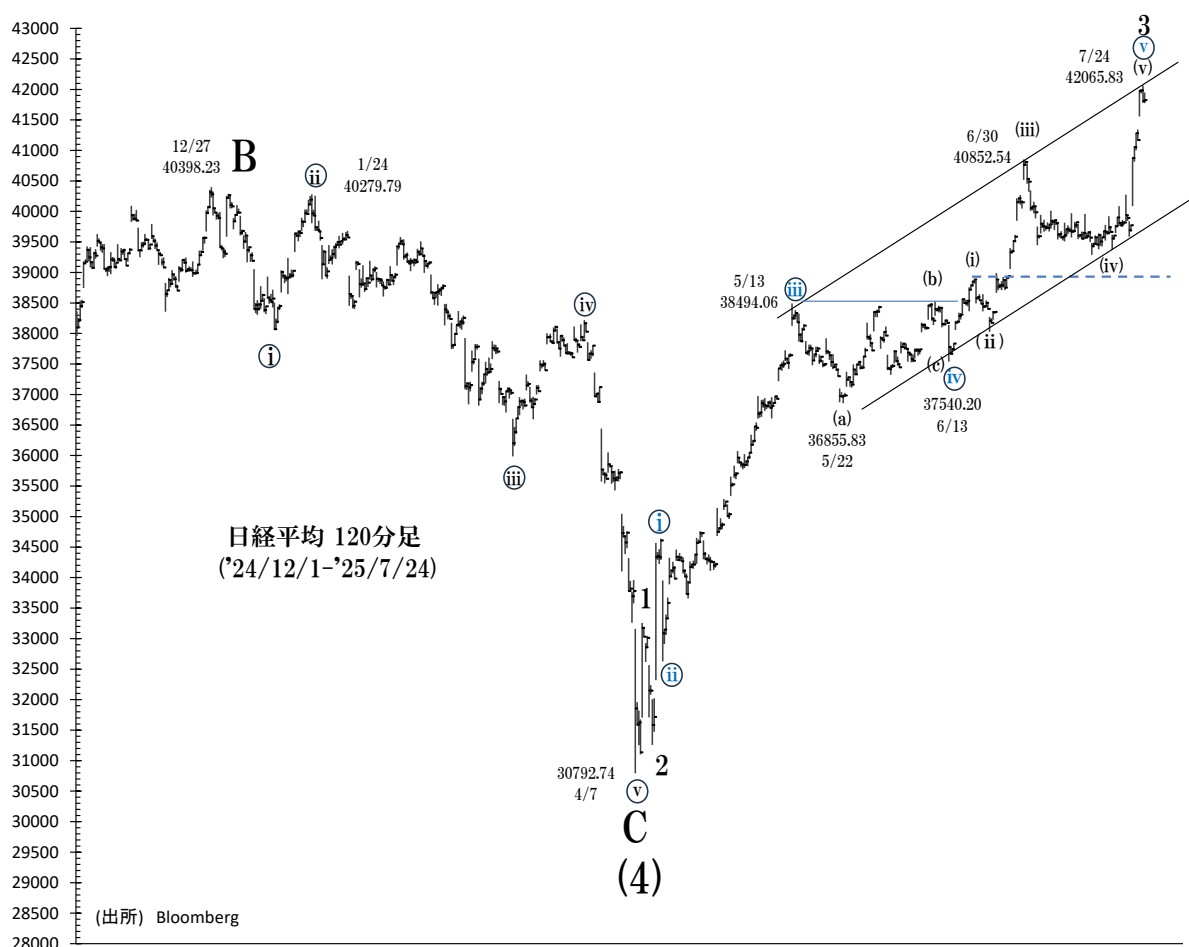
日経平均は 20 年 3 月コロナショック底(16,358.19 円)を起点とする、プライマリー上昇③波が進行中です。さらに今年 4 月安値(30,792.74 円)からはインターミディエイト級第(5)波の上昇にあります。この第(5)波の上昇を以て、プライマリー③波は完成します。

筆者は日経平均が、24 年 7 月高値(42,426.77 円)を 8 月中にも上抜くと予想していましたが、最高値更新はさらに早まるかもしれません。7 月 24 日に TOPIX は最高値を更新し、この日は日経平均が一時 4 万 2000 円を回復しています。

7 月第 2 週(7~11 日)まで海外投資家は現物を 15 週連続で買い越しました。アベノミクス相場の始まりの時期に重なる 2012 年 11 月~13 年 3 月(18 週連続)以来、約 12 年ぶりの長さとなりました。連休の関係で 7 月第 3 週(14~18 日)分は未発表ですが、16 週連続で買い越した可能性は小さくないでしょう。

7 月 24 日にはドル建て TOPIX も最高値を更新しています。海外投資家は日本株を長らくアンダーウェイトしており、「持たざるリスク」から日本株再評価の機運が高まっているとみられます。





## 【日足・時間足 エリオット波動分析】

### [TOPIX]

7月24日のTOPIXは24年7月の過去最高値(2946.60)を更新、この日は一時2986まで上昇し、初の3000台が見えてきました。フィボナッチ比率に基づくと①[3164]、②[3323]などが導かれ、第(5)波の目標値として注目されます。

### [日経平均]

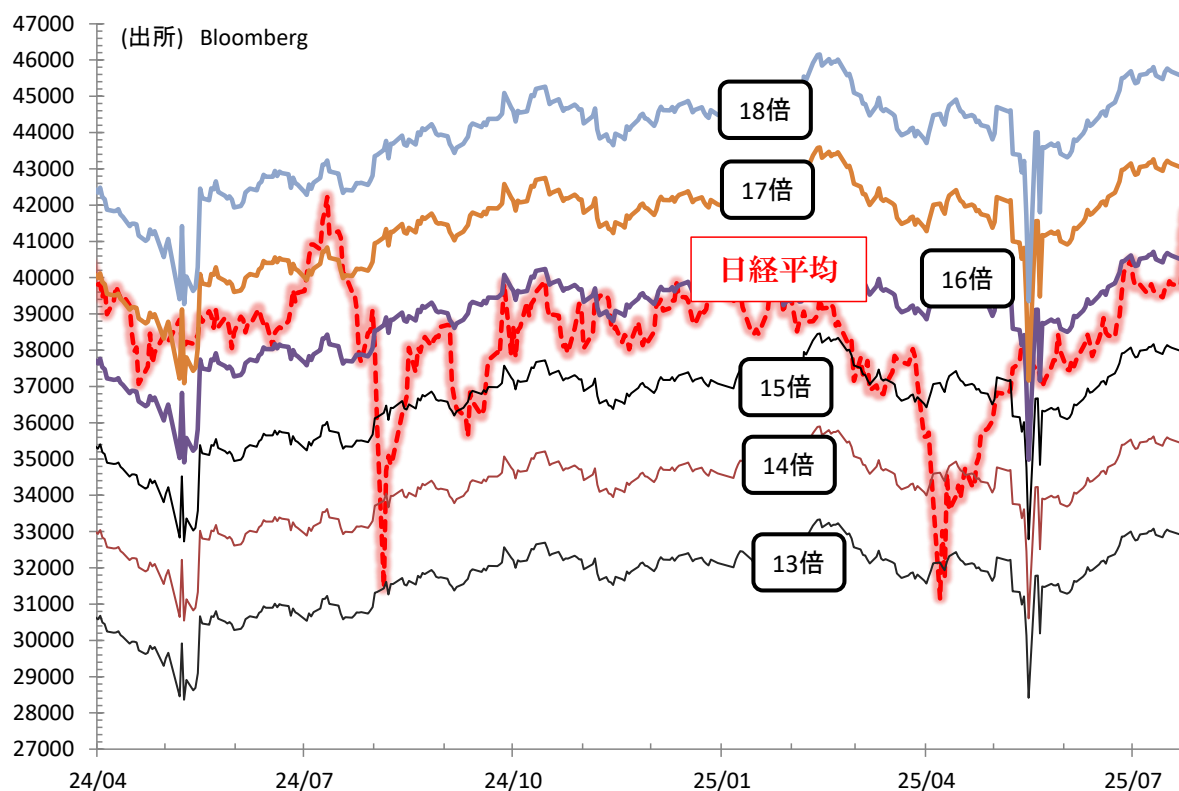
7月23日の寄り前に日米関税交渉が電撃的に妥結。これを受け日経平均は急騰。24日までの2日間の上げ幅は2000円を超えました。24日は一時42,065円まで上昇し、24年7月高値(42,426円)打診が目前となりました。

想定された通り、4万円より上の価格帯「真空地帯」を大きく跳ねる展開となっています。短期的には利食い売りが出やすいとみられますが、市場は強気ムードにあり、日経平均も早々に最高値を更新する可能性があります。

なおTOPIXの目標価格(上述)、現在のNT倍率(14倍)、これらに基づくと[44,300円~46,500円]が目標となります。さらにフィボナッチ比率に基づくと、[44,597円][45,230円]などが得られます。

## [予想 PER 別の日経平均水準]

7月24日の日経平均予想 PER は 16.60 倍・予想 EPS は 2519 円。この水準は、過去最高の EPS・2564 円(2/13)に近いものです。



## NY ダウ・S&amp;P500



## 【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

## (プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの(B)波による上昇は今年 1 月高値(45,054 ドル)で終わり、以来、C 波による下落局面です。足元、C-(2)波完了を見極める局面が続いています。今後は C-(3)波の下げにより、4 月安値(36,611 ドル)を大きく下回る展開が想定されます。

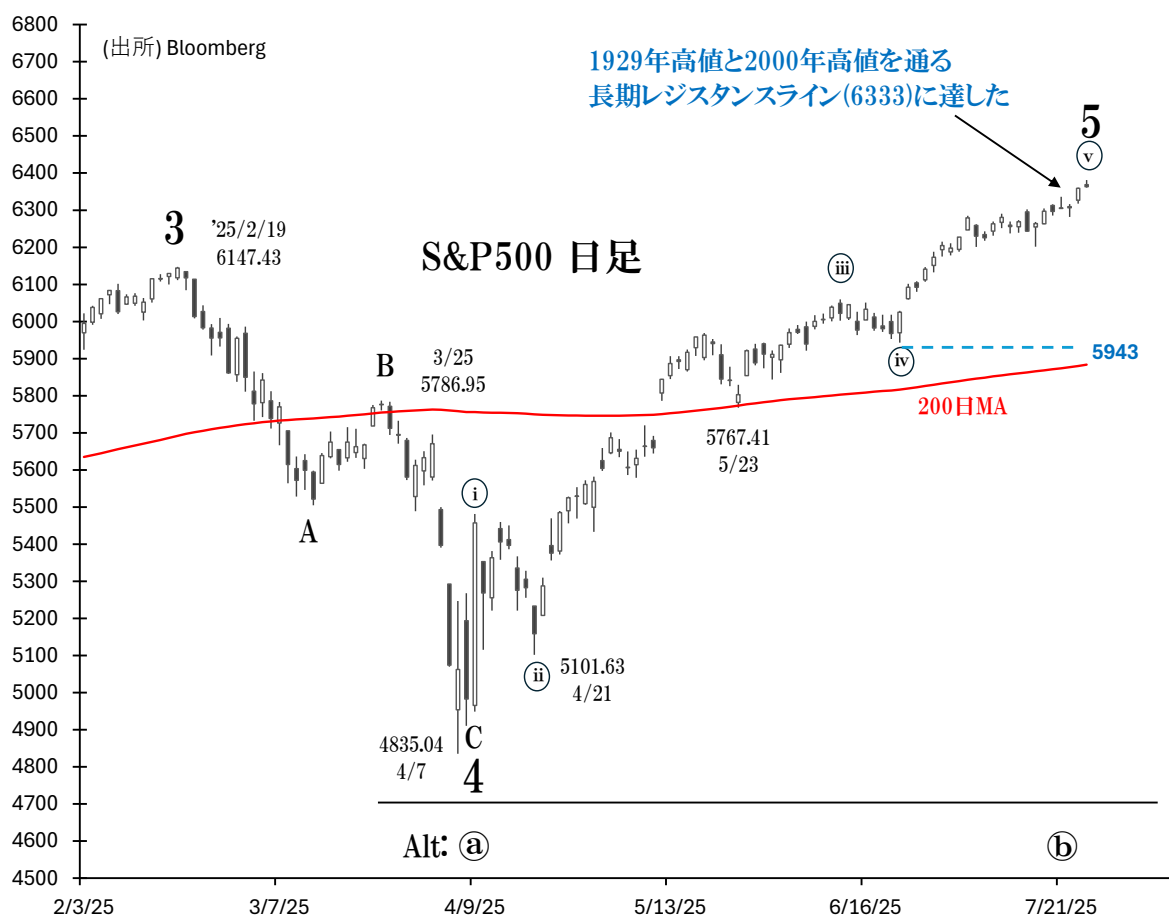
ただし 45,054 ドルを上抜くと、この波動カウントは否定され—7 月 23 日には一時 45,016 ドルまで上昇しています—下記オルタナティブ・カウントに切り替えます。

## (オルタナティブ・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の五波構成による上昇(=プライマリー級第⑤波)は、今年 4 月安値から最後の上昇(=インターミディエイト級第(5)波)が進行中です。

あるいは S&P500・ナスダックで検討しているごとく、4 月からの上昇を「トライアングル」における⑥波とカウントすることもできます。

上記波動カウントの正否はすぐに判明しませんが、少なくとも当面の高値を付けつつあること、相応の調整入りが近い、などの点で一致しています。



### 【S&P500 日足 エリオット波動分析】

1929 年と 2000 年の高値を通る、過去 100 年近くにわたる超長期レジスタンスラインは今年 7-9 月 [6333]に位置します。指数は同ラインに 7 月 21 日に到達した後も 24 日は一時 6381 まで上昇していますが、これは「スローオーバー」の可能性があります。ちなみに S&P500 は昨年 12 月に同ラインに達し、その後 4 カ月で 21%下げました。

FactSet によれば、S&P500 の(12 カ月先)予想 PER は 22.2 倍(7/18 時点)。これは 5 年平均(19.9 倍)より 12%、10 年平均(18.4 倍)からは 21%、各々「割高」水準です。ひとたび調整入りとなれば、10%~20%の調整は普通に起きることでしょう。

### 【S&P500 長期エリオット波動分析】

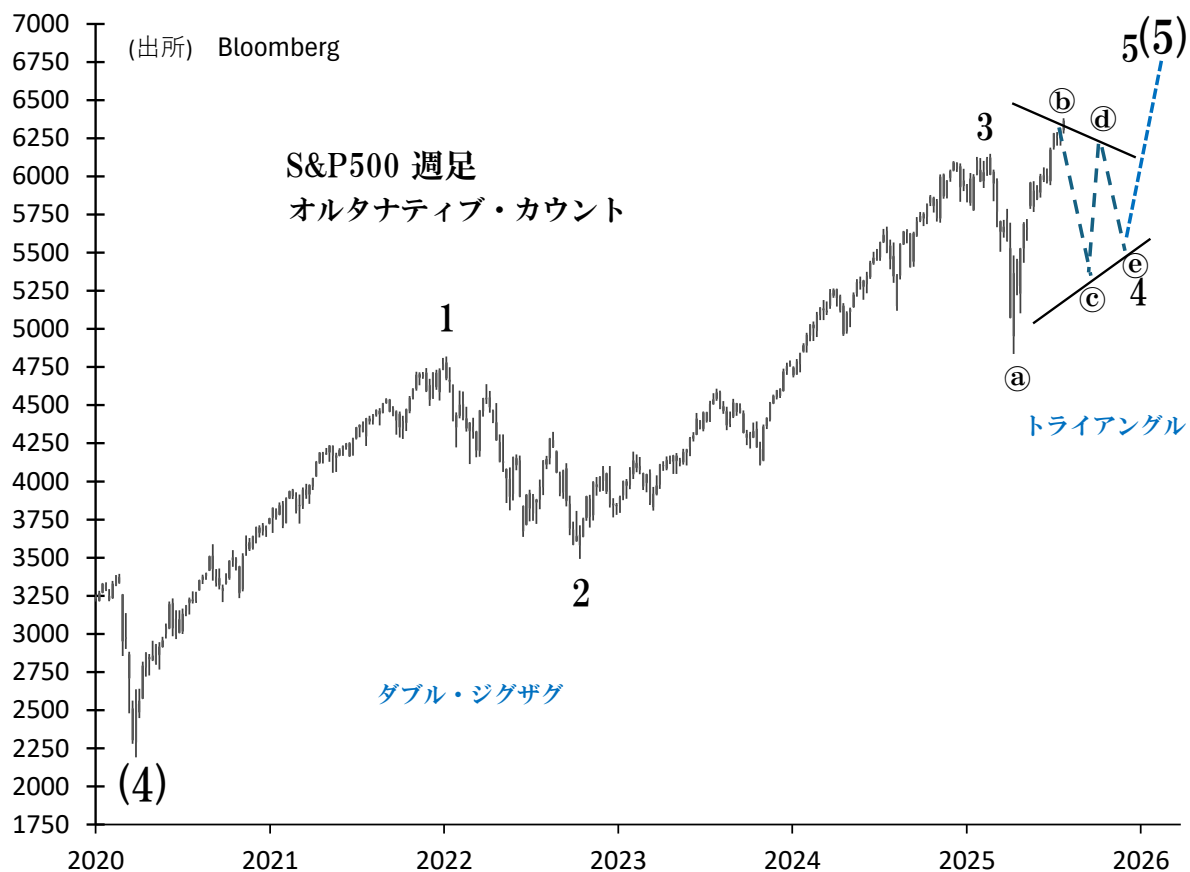
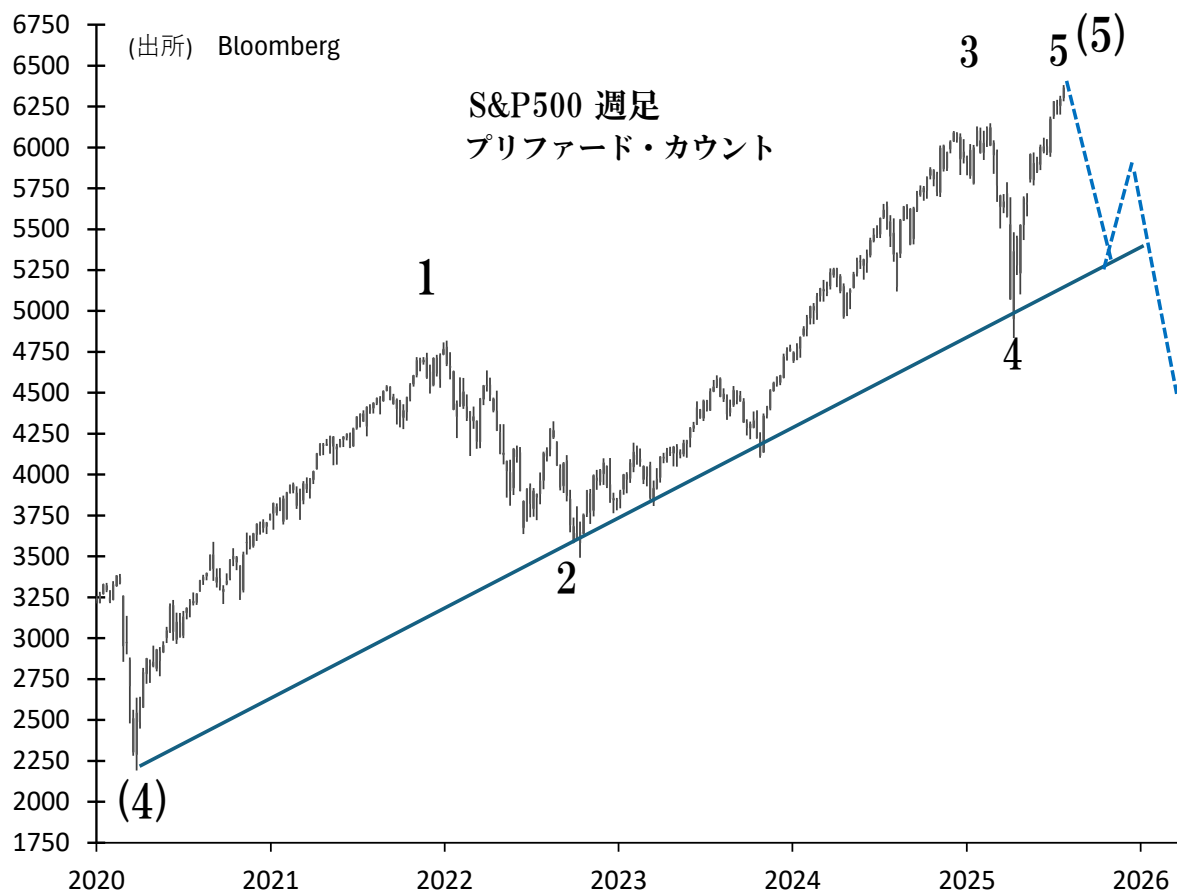
#### (プリファード・カウント)

4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第 5 波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

#### (オルタナティブ・カウント)

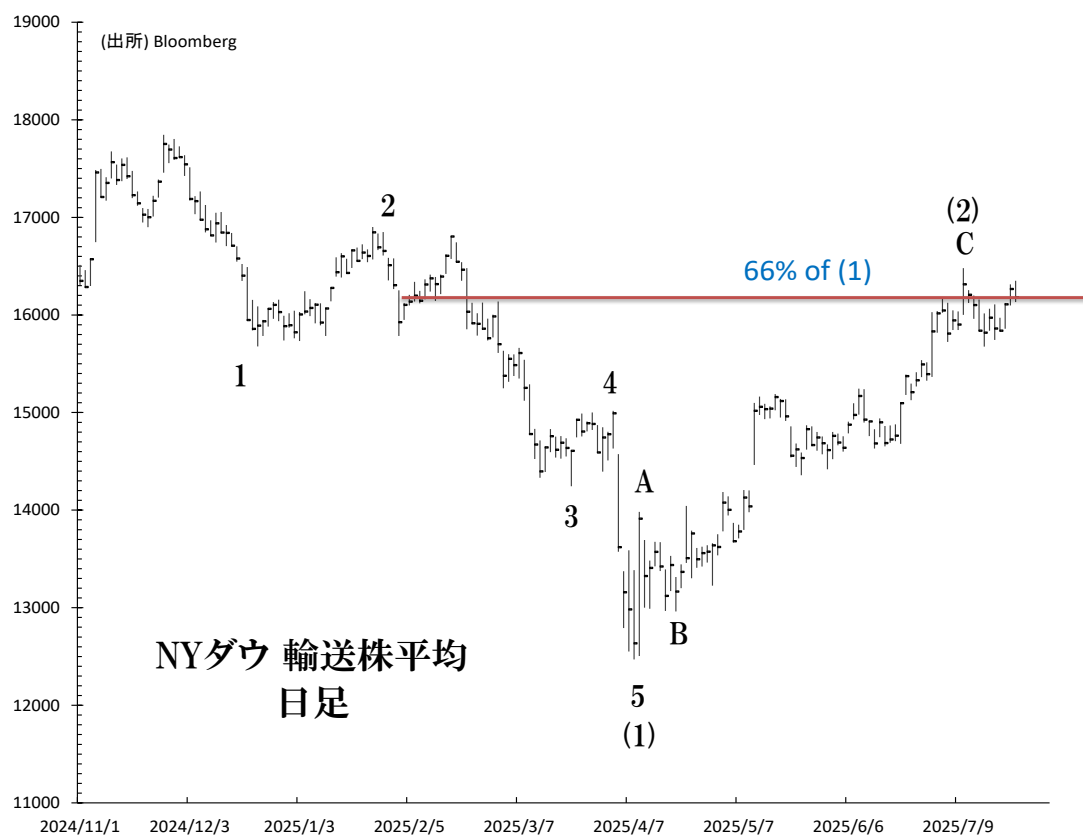
4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

近々⑥波の下げがスタートするとみられ、それは②波(2 月~4 月)下げ幅に対し、62%~66%の大きさ(813~866 ポイント)になるでしょう。そうすると⑥波により S&P500 は 5400 を下回る展開になりそうです。

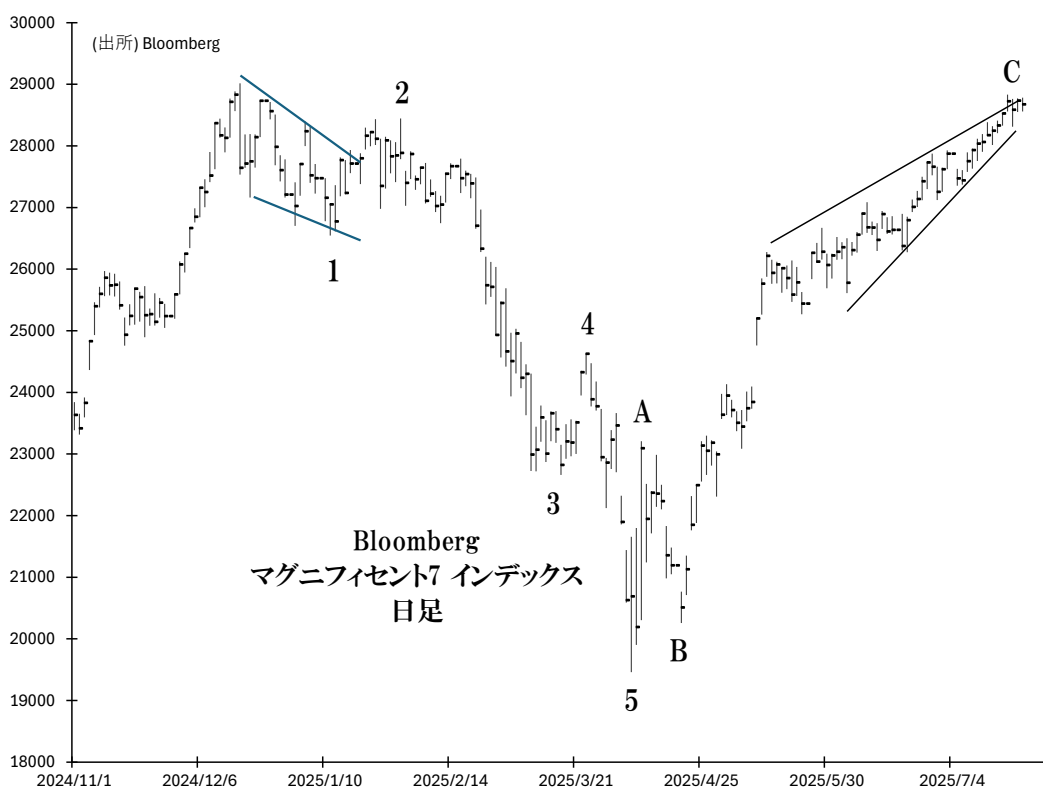




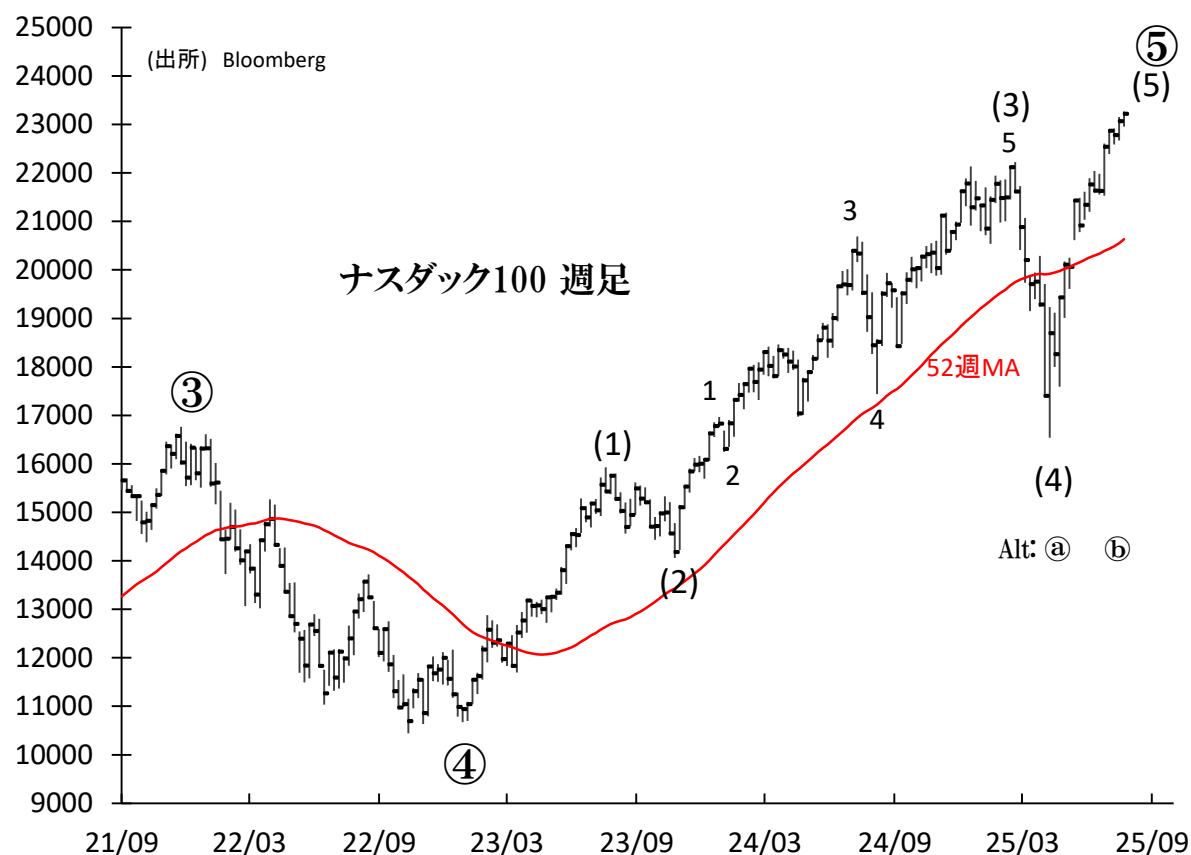
[ダウ輸送株平均] 第(1)波の 66%戻り水準付近で推移



[マグニフィセント 7] エンディング・ダイアゴナル



# ナスダック



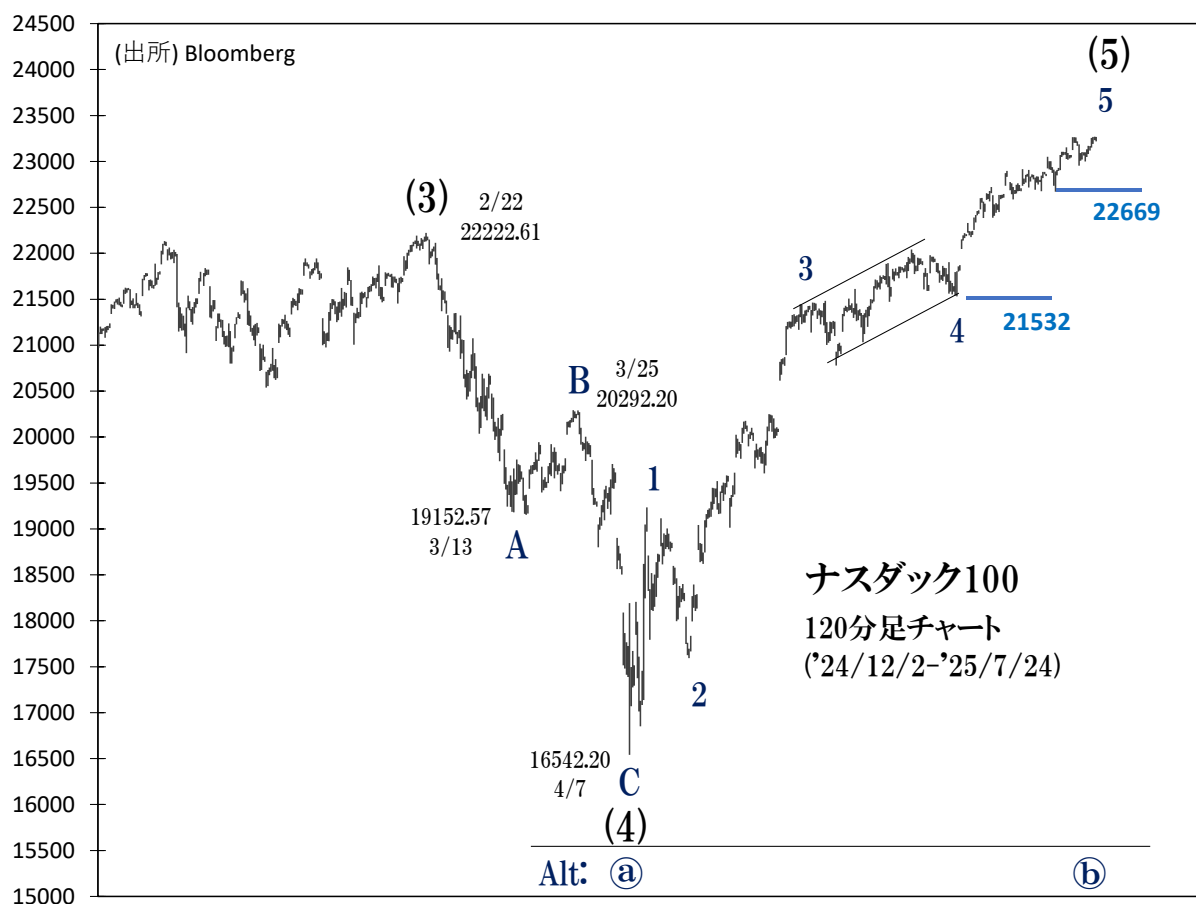
## 【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

### (プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。既に最高値を更新しており、第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。遠からず調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

### (オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中⑥波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず③波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも③波の下げ幅は②波のそれに対し 62%~66% となり、⑥波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



### 【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波、あるいは、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

7 月 24 日には一時 23,268 まで上昇し最高値を更新しました。

既にフィボナッチ比率からの上値想定レンジ[23,195-24,224]内に入っています。

22,669 を下回ると最初の弱気トリガーが発動します。この場合、ナスダック 100 は当面 21,532 を目指す調整に入った可能性があります。

# 米ドル/円



## 【月足・エリオット波動分析】

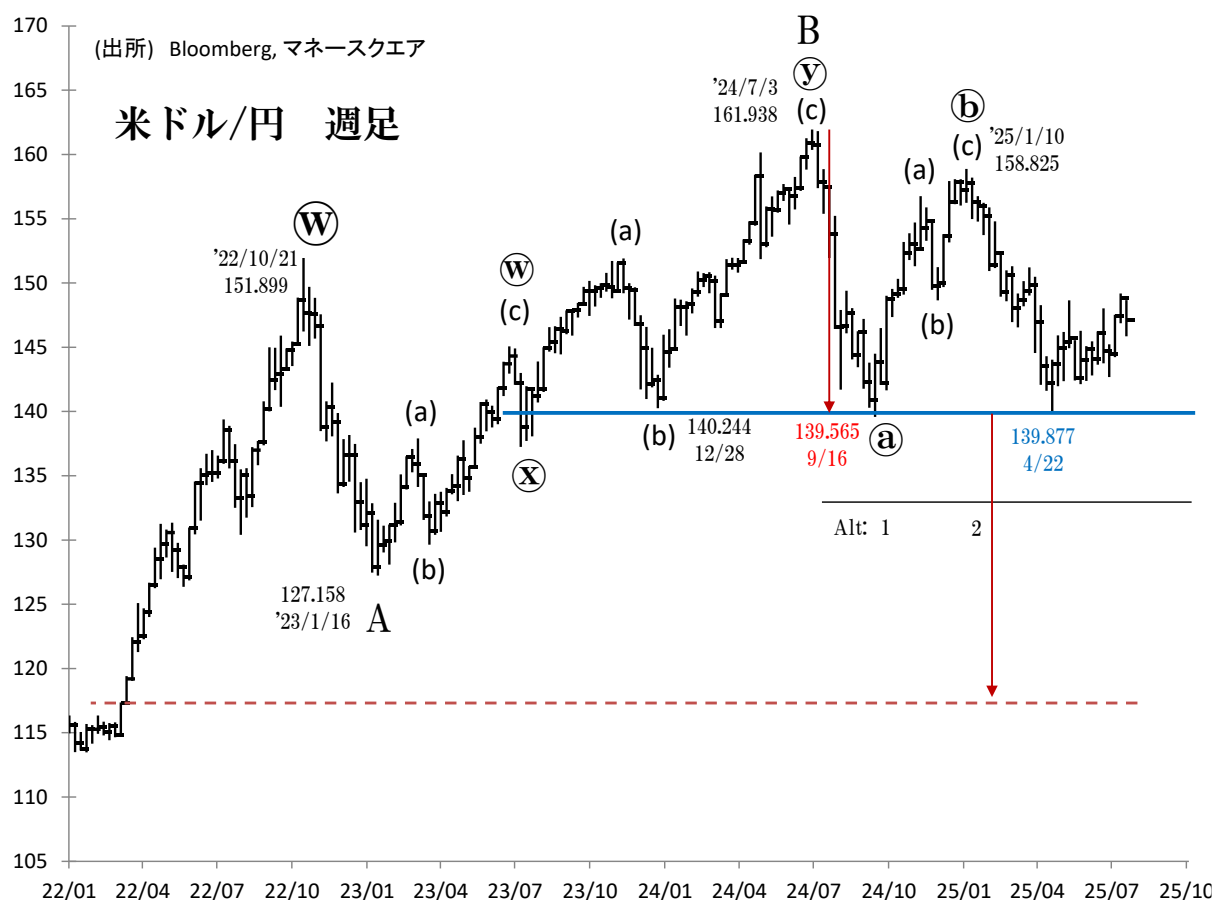
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①137.445 円(8 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.820 円(8 月)です。



### 【週足 エリオット波動分析】

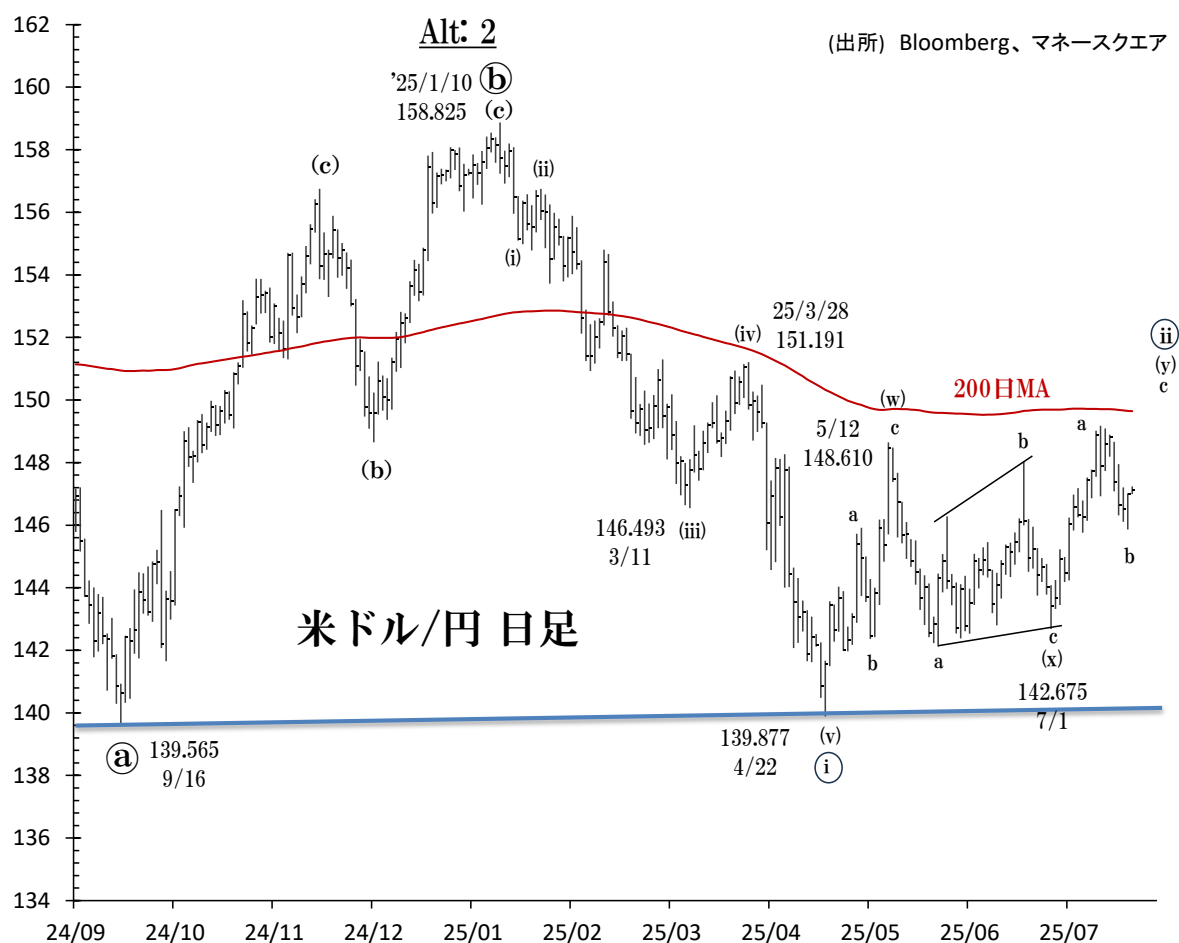
161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドが進行中です。このC波は(先ずは)三波構成(①-②-③)が想定され、158.825 円(1/10)から③波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年1月からのドル安・円高を、第3波による下落とみることもできます。現時点でサブシナリオですが、これによれば、先々1ドル=120 円試しが視野に入ります。第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

予想された通り、足元ドル/円は、149 円台～151 円台を試す展開となっています。ドル指数が数カ月タームの上昇に入ったとみられることも、ドル/円上昇見通しを支持しています。

こうみるとドル/円の下げトレンド再開は、今から数カ月後になる可能性が高いでしょう。

もっとも中長期でのドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル=120 円割れの可能性もみえています。



### 【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)以来のマル ii 波によるリバウンドは、「ダブル・ジグザグ」(w)-(x)-(y)により継続中とみています。

142.675 円(7/1)からは(y)波によるドル高円安局面に位置付けられます。7 月 16 日には一時 149.153 円と 3 カ月半ぶり円安になったものの、**[149.351 円]**(1 月からのドル/円下落の半値戻り水準)と 200 日 MA に阻まれました。

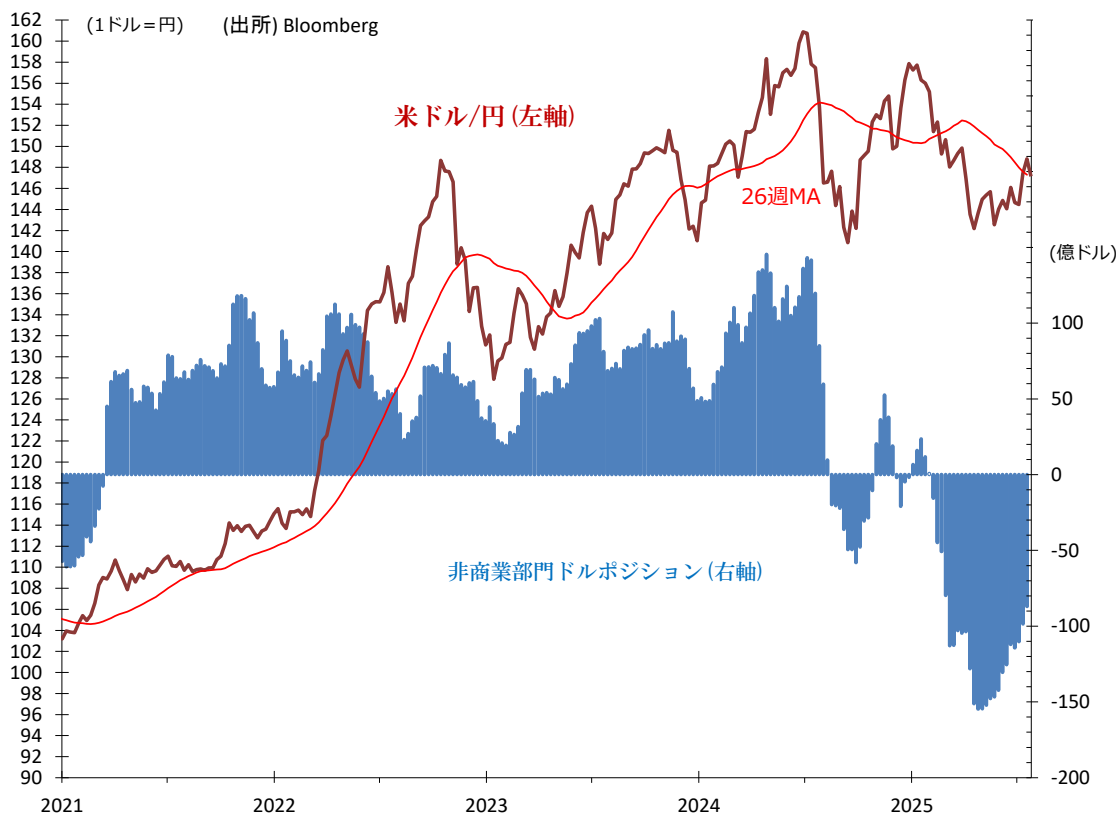
足元で若干の円高となっていますが、それは(y)-b 波とカウントできます。遠からず(y)-c 波による円安となり 150 円台を回復し、さらには**[151.408 円]**((w)波と(y)波が等しく上がる水準)や、**[151.586 円]**(1 月からの円高の 61.8%戻り水準)などを打診することになりそうです。

### 金利差からのドル/円推計値

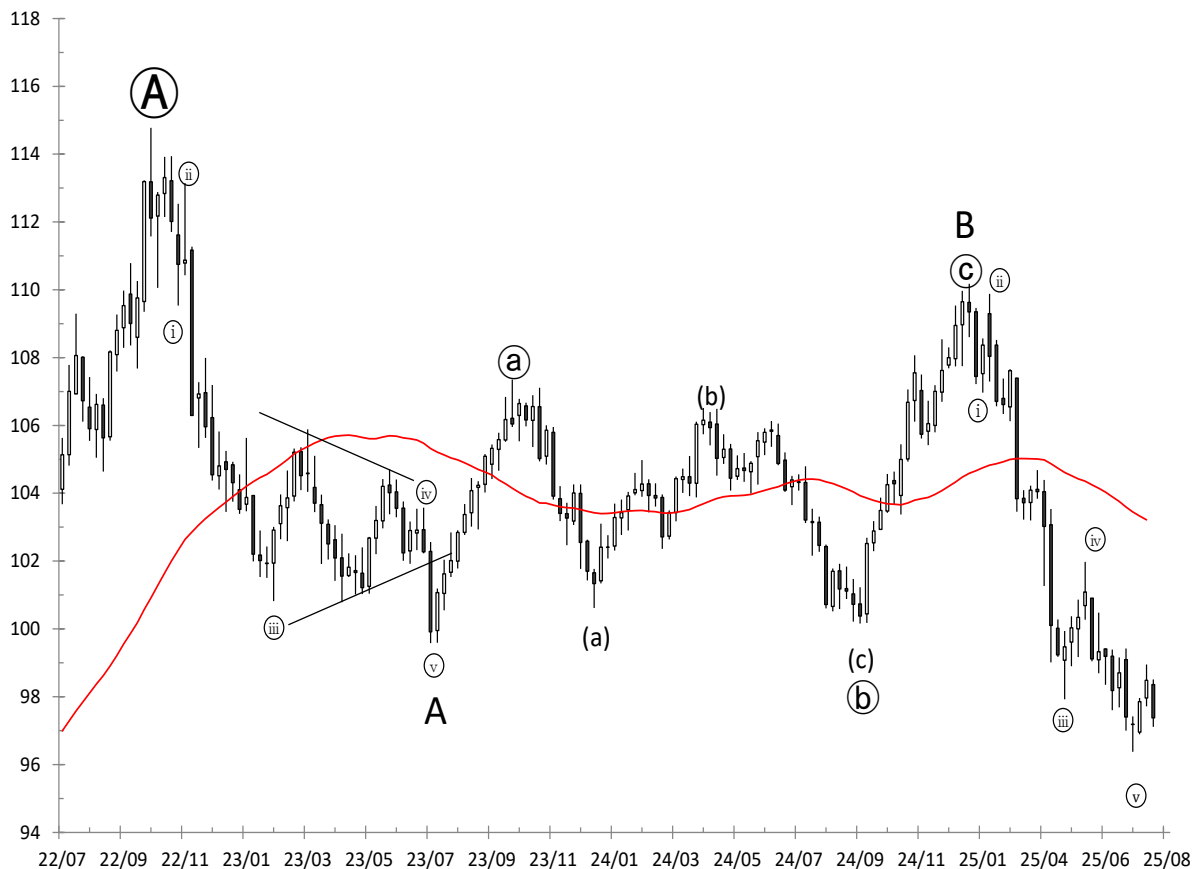
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は**[143.440 円]**です。

### 投機筋の円買い持ち高が 2 週続けて縮小(2025 年 7 月 15 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 99.1 億ドルから 87.0 億ドルへ 3 週続けて縮小しました。



## ドルインデックス (ドル指数)



### 【エリオット波動分析】

日足チャートは、5 月高値(101.977)から引いたレジスタンスラインを明確に上抜きました。年初から半年近く続いたドル安 C 波は 96.377(7/1)で終わったとみられます。それは、22 年高値からのジグザグ(A-B-C)の完成を意味するものです。

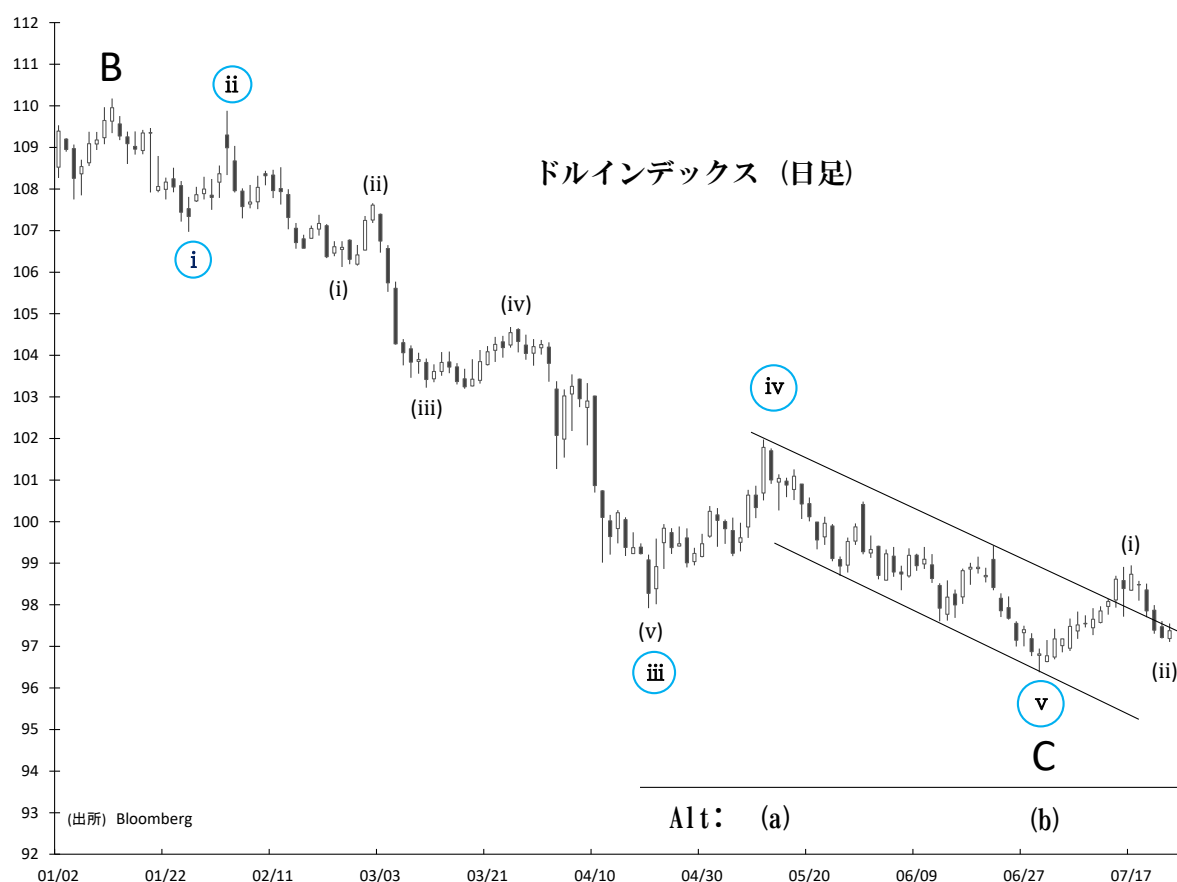
もっとも、今回のジグザグ完成を以て、22 年高値からのドル安③波のすべてが終了したかは疑問です。筆者は③波は短くとも 2028 年頃まで続くともっています。

この見方通りだとすると、足元始まったドル高は(X)波に位置付けることが適当です。③波全体はおそらく「ダブル・ジグザグ」(A-B-C-(X)-A-B-C)を描いていくでしょう。

因みにドル指数は、8 月から 11 月まで強くなる季節性があるようです。ここからすると、ドル高は今後 3～4 カ月続く可能性があり、それは当面 101.977(C 波レツサーディグリー・マル iv 波頂点)を目指すでしょう。

なお可能性は小さくなりましたが、ここから何らかの拍子に 96.377 を下回るケースでは、当然 C 波が続いていることになります。この場合は 94.976 を目指すでしょう。これは、A 波と C 波が等しく下がる水準のことです。





※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---